

どこが「収束」か

福島原発事故2年余

■ 汚染水は2年で満杯

原子炉建屋に流入する地下水で汚染水は毎日400トンも増え続け、限界までタンクを増設しても、後2年であふれます。

■ 高濃度汚染水もれ

4月、高濃度汚染水が地下貯水槽から120トンも漏れ出しました。貯水槽といっても穴を掘ってシートを3重に敷いてフタをただけ。余りにその場しのぎです。

■ ネズミ1匹で冷却停止

使用済み核燃料の冷却施設が2年近く仮設のまま、ネズミが電気設備に入り電気回路がショートして核燃料冷却が停止する事故が連続して起きました。



手前の4号機建屋の最上部から見た3号機

「収束宣言」撤回がまず一步

「収束宣言」をあくまで撤回しない安倍政権。むしろ、福島原発が「安定状態にある」としてまともな対策をとらず、東京電力のやり方を追認しています。東京電力は

傲慢な態度を増長させ、賠償を切り捨て。収束も廃炉も深刻な手抜きと無責任が横行しています。本心に罪つくりな「宣言」。撤回がまず一步です。

全原発廃炉に踏み切れ

日本共産党

「新基準」で新たな安全神話

安倍内閣は、原子力規制委員会が7月に策定する「新規制基準」をテコに原発再稼働を強行しようとしています。「新基準」は「過酷事故が起こりうるが、世界最高の安全性が確保される」というもの。以前は「事故は起きないから大丈夫」という「安全神話」



大飯原発3、4号機

でしたが、今度は「事故が起きて大丈夫」という「新たな安全神話」です。

放射性物質を外に出す計画

「新基準」はこれまでの「安全基準」を「規制基準」に言い換えました。規制委員会の委員長は、「絶対安全とは言わない。安全は究極の目標」

と言い放っています。しかも「新基準」では過酷事故が起きた場合、放射性物質を放出することが前提です。これでどうして大丈夫なのでしょう。

「原発やめる」7割 「ゼロ」決断を

世論調査では「日本の原発を今後どうしたらよいと思うか」に「やめる」が71%、福島は85%。「すぐやめる」が福島では3割です（「朝日」・福島放送共同調査）。



原発ゼロ☆大行動で
3月10日、東京都内

いま稼働している原発は大飯の2基だけ。それでも昨年

の猛暑も今年の厳冬も乗り切れました。今こそ「即時原発ゼロ」を決断すべきです。